

令和2年度 第3回駿東田方圏域地域包括ケア推進ネットワーク会議
圏域会議（三島田方地域） 議事録

静岡県東部健康福祉センター

日 時	令和3年1月27日（水） 午後6時00分 から 午後7時25分 まで
場 所	ZoomによるWeb会議
出 席 者	<p>【団体委員】 吉富委員、三原委員、栗原委員、土佐谷委員、野中委員、関委員、稲木委員、藤原委員、笠原委員、當委員、堀内委員、紅委員、小林委員、小森委員</p> <p>【市町委員】・・・（地域包括ケア推進担当課長等） 三島市、伊豆市、伊豆の国市、函南町</p> <p>【県委員】 東部健康福祉センター（黒岩所長） 《欠席》 東部保健所長 安間所長</p> <p>【事務局】 （県庁）長寿政策課 安本主査 健康増進課 渡邊地域支援班長 医療政策課 折笠主事 （東部健福セ）石川福祉部長、土屋福祉こども班長、仲泊主査、松井主任 古谷技監、鈴木薬務班長</p>
議 事	<p>1 議 事 第9次静岡県長寿社会保健福祉計画圏域会議の策定 説明 県庁長寿政策課 安本主査 （資料1、2）</p> <p>2 報告事項 （1）地域リハビリテーションの強化推進 説明 県庁健康増進課 渡邊地域支援班長（資料3） （2）地域包括ケア情報システム「シズケア*かけはし」の活用 説明 県庁健康増進課 渡邊地域支援班長（資料4）</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・出席者名簿 ・駿東田方圏域地域包括ケア推進ネットワーク会議（三島田方地域）設置要綱 ・資料1 「地域包括ケア推進ネットワーク会議（圏域会議）の概要」

	<ul style="list-style-type: none"> ・資料2 「圏域計画（素案） 駿東田方圏域」 ・資料2-2 「圏域計画（素案） 駿東田方圏域 新旧対照表」 ・資料3 「地域リハビリテーションの強化推進」 ・資料4 「地域包括ケア情報システム「シズケア*かけはし」の活用」 ・参考資料 「第2回圏域会議（令和2年11月4日開催）議事録」 ・チラシ 「病院・施設・地域のケアスタッフ用新型コロナウイルスから高齢者を守ろう」
■議事概要	
1 開会 (石川部長)	・会議の開会。
2 挨拶 (黒岩所長)	<ul style="list-style-type: none"> ・多忙・夜分の会議出席及び日頃の新型コロナウイルス感染拡大防止尽力に感謝 ・県は第9次長寿社会保健福祉計画を3月末に策定予定 ・今回は今年度2回の会議において議論いただいた圏域計画の最終案について御審議いただく。忌憚のない意見交換をお願いする。
3 事業説明 (石川部長)	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席は東部保健所長の安間委員1名 ・設置要綱を説明。議長は、東部健康福祉センター所長があたる。 ・会議は公開の対象
4 議事 ●議長 (黒岩所長)	<p>次第に沿って議事を進めます。</p> <p>次第の3の(1)、長寿社会保健福祉計画圏域計画の策定につきまして、県の健康福祉部長寿政策課の安本主査から説明をお願いします。</p>
県庁長寿政策課 安本主査	資料1、2及び2-2について説明
●議長 (黒岩所長)	<p>ありがとうございました。ただいまの安本さんの説明に対して御質問或いは御意見、それ以外でも結構です。ございましたら挙手の上、発言をお願いします。三原委員、お願いします。</p>
三原委員 (田方医師会)	<p>資料2-2新旧対照表の(今回加えられた)三つ目の○「新型コロナウイルスの影響で」の部分、サロンや体操教室などがなかなか開けないということを知って、私の診療所の患者にもそういう場に行けなくて残念だという方がいる。</p> <p>この文章の最後の方に「圏域内で情報共有し、高齢者の心身機能低下の防止に取り組む」と書いてあるが、具体的に、例えば何人までとか、どのぐらいの距離でとか、マスクをきちんとつけるとか、換気や消毒をどうするとか、そういうことを体操教室などを運営、参加している人にしっかりと明示すれば、安心して開けるのではないかと。</p> <p>そのようにしている市町もあると思うがどうか。</p>

<p>県庁健康増進課 渡邊班長</p>	<p>新型コロナウイルスの関係で、通いの場や、地域の活動の場が休止しているところもあり、運動機能や認知機能の低下等が懸念される部分もある。また、三原先生もおっしゃった通り、工夫をしながら活動を再開しているところも多く見られる。</p> <p>三島市では、人が集まる活動のほかにも、タブレットを使ってオンラインで運動をするような取組を県と一緒に実施した。そのように工夫して、人が集まる場とオンラインで実施する場をうまく組み合わせる、ハイブリットのような形を県としても進めていきたい。</p> <p>できればそうした取組や事例を県として周知していきたい。通いの場の方々にも伝えていきたいと考えている。</p> <p>三島市の方からも少し補足していただけるとありがたい。</p>
<p>佐野委員 (三島市)</p>	<p>今、紹介いただいたとおり、三島市ではオンラインを使った通いの場の支援を進めている。シニア世代のスマホタブレットアドバイザーの方たちをお願いをして、通いの場の方たちを集めてZoomの使い方の講習会を行った。県の講座に参加をした後、三島市独自でも何回か開催している。その後、通いの場にスマホタブレットアドバイザーを派遣する事業も開始している。</p> <p>先ほど三原先生がおっしゃった、どういうふうに感染対策をして集まったらいいかを通いの場の方に伝えるためのマニュアルを国が作成しているので、それを通いの場の方々に一斉に周知をさせていただき、それに従って衛生管理をしながら進めていただくようお願いをしたところである。</p>
<p>●議長 (黒岩所長)</p>	<p>ありがとうございました。その他に、御意見、御質問等いかがでしょうか。</p> <p>前回の会議では、コロナ渦における介護予防やフレイル予防等について、県地域包括・在宅支援センター協議会の笠原委員や県ホームヘルパー連絡協議会の小林委員などから御意見等いただきました。何か御意見等ございますでしょうか。</p>
<p>小林委員 (県ホームヘルパー連絡協)</p>	<p>前回の会議で、デイケアやデイサービス、訪問介護の利用を控えて機能が低下した利用者がいたという話をした。その利用者については御家族の方が困ってこのままではいけないということで(要介護認定の)区分変更申請をかけたが要介護度が変わらずに戻された。</p> <p>ケアマネから御本人様に、サービス事業所が安全対策をきちんとして感染症を予防しているので外出いただけると説明して、サービス利用を再開いただいている。現在利用控えをされてる方はいない。</p> <p>先日、東部保健所管内で新型コロナの変異株の感染者が出たということで、訪問先の利用者から動揺とか、どこの人だろうかという質問もあつたりと不安になられている状況はあるが、「三島市内などの介護施設でのクラスターの発生はとりあえずないので、皆さん気をつけてやってるから大丈夫ですよ」とヘルパーも</p>

	<p>利用者に安心していただけるよう話をしている。</p> <p>そのため、不安があって通所サービスを行き渋るという利用者は今のところいない。</p>
●議長 (黒岩所長)	<p>土佐谷委員、御意見ございますでしょうか。</p>
土佐谷委員 (三島市薬剤師会)	<p>コロナ渦にあって薬局がどの程度訪問看護に行っているかということについては、実際に訪問に行ってる薬局の数が少なく、きちんと把握していないため、はっきりしたことは言えない。</p> <p>どちらかという訪問看護も自粛してる部分があるので、数は減ってるように思う。</p> <p>訪問するときはマスクや防護具などを用意していくが、実際にはコロナ感染者の方やその家庭へは訪問しないので変化はない。</p> <p>訪問するときは発熱や体調など事前に聞くなど一般的な注意をしているが、薬局が何か特段気をつけて取り組んでいるということはない。</p>
小林委員 (県ホームヘルパー連絡協)	<p>訪問介護の利用者数は、特にコロナだからということではなくコンスタントに増えたり減ったりということを繰り返している。冬場は体調を崩して入院される方はいるが新規の依頼もあるため、利用者の数自体はそれほど増減はない。</p> <p>ただ、外部からの訪問をなるべく控えたいとおっしゃる御家族の方もいて、新人ヘルパーの同行訪問を控えるとか、担当者会議を利用者宅で開催するのを控えて照会にするなどの対応をしている。</p> <p>訪問時に利用者の発熱があつたりして少し慌てることもあるが、コロナの影響ではなく既往の病気によるものだったり風邪だったりで発熱する方がいる。今のところ身近にインフルエンザに罹ったという利用者などはいない。</p> <p>ヘルパーは体調を管理して万全にしていかなければいけないということで気を引き締めてはいるが、ヘルパーの中には家族がテレワークばかりでは済まず東京に通勤しなければいけないという者もいる。</p> <p>ヘルパーのほうか（利用者に）迷惑かけては申し訳ないからと休職をしたり、もう辞めるというようなヘルパーも他の事業者にはいたようである。そのため、今後ヘルパーの人材不足が深刻になるのではないかと懸念している。</p>
藤原委員 (県リハビリ専門職団体協)	<p>通いの場やサロン等の活動再開は先ほど挙げられたような再開手順の書かれたマニュアルを参考にしたり、ICTを活用するなどして解決できるかと思うが、そもそも再開したときの参加率がなかなか上がってこないところが全国的な課題として挙げられている。</p> <p>理学療法士協会の調査では、その一番の理由はコロナの感染リスクするよりも、活動に参加することへの周囲の人の目が怖いので参加できないということが</p>

	原因として挙げられていた。
県庁健康増進課 渡邊班長	<p>活動を再開した後の参加率が上がっていない状況は承知していたが、周囲の目が怖くて参加できないというところは十分把握できていなかった。</p> <p>理学療法士会の調査結果等をいただきながらまた相談させていただきたい。心理的な部分でのサポートをどのようにして周知していくかというのは非常に大事な部分である。広報の方法などについても相談させていただきたい。</p>
●議長 (黒岩所長)	他にいかがでしょうか。函南町の長屋委員、通いの場やサロン等の活動縮小や再開などについて御意見等ございますでしょうか。
長屋委員 (函南町)	<p>函南町では、コロナ渦におけるフレイル予防、介護予防について、屋内活動はやはりリスクが高いということで、畑づくりを使った介護予防事業を始めている。草取りだけ、水やりだけでも来れるときに近くの方が歩いていき取り組むという形である。</p> <p>また、そこでとれた作物はコンビニで仕入れていただき買い物に行けない高齢者へ配達してもらうといった移動販売につなげる話し合いが行われている。</p> <p>コロナ渦ではあるが、新しい視点で生活支援、介護予防、社会参加に繋がる事業に取り組み始めている。</p>
●議長 (黒岩所長)	<p>ありがとうございました。ほかにいかがでしょうか。</p> <p>ないようでしたら、次第の4報告事項に移ります。</p> <p>資料の3及び資料4について、県健康福祉部健康増進課の渡辺さんから説明をお願いいたします。</p>
県庁健康増進課 渡邊班長	資料3、4について説明（回線の不調により途中で中止）
●議長 (黒岩所長)	<p>説明がほとんど聞き取れませんでした。委員の皆様もこれまでの会議を通じて内容については御理解されてると思います。シズケア*かけはしに関して御意見、御質問等があるようでしたらこの場で御意見を賜ってそれを県庁の方に答えていただく形にしたいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>三原委員、お願いします。</p>
三原委員 (田方医師会)	<p>シズケア*かけはしは診療所や介護保険事業所等とセキュリティの効いた形で情報交換が可能になるシステムである。</p> <p>今、コロナで情報交換が必要なとき、例えば保健所と情報交換したい場合、このシステムを活用できるのではないかと思うがいかがか。</p>

<p>県庁健康増進課 渡邊班長</p>	<p>資料にあるように、これまではシズケア*かけはしを通じて、在宅療養が必要であると主治医が認めた方を支える在宅のチームを作るということをしてきた。</p> <p>認知症で一人暮らしの方などにも、市町や地域包括支援センターなどが連携してこのシステムを使った取組ができるように、来年度のシステム改修を検討している。コロナ渦における情報交換もこのシステムでうまく活用できるように進めていきたい。</p>
<p>三原委員 (田方医師会)</p>	<p>施設内でコロナ陽性者が出た場合、保健所に色々指導を仰ぐことになるが、情報をどのようにやりとりしているのか。主に電話なのか。それとも、他に何かいい方法でやっているのかを知りたい。</p>
<p>●議長 (黒岩所長)</p>	<p>新型コロナ患者が出た場合、保健所は直接その施設と連絡を取り合っています。特に、クラスター発生の場面では、FICT（ふじのくに感染症専門医協働チーム）という感染症専門の医師に現地に入っただき、感染拡大防止のために医学的な見地から指導等をしていただく仕組みがあります。</p>
<p>三原委員 (田方医師会)</p>	<p>施設と保健所の間で情報のやりとりをするときに、シズケア*かけはしは有用ではないか。保健所もシズケア*かけはしを導入するとよいと思う。</p>
<p>●議長 (黒岩所長)</p>	<p>該当施設がシズケア*かけはしを導入しているようであればシステム上で情報のやりとりをすることは可能かとは思いますが。</p> <p>東部保健所はシズケア*かけはしを導入しています。</p>
<p>三原委員 (田方医師会)</p>	<p>了解した。</p>
<p>●議長 (黒岩所長)</p>	<p>地域リハビリテーションの強化推進について、藤原委員、何か御意見ございますでしょうか。</p>
<p>藤原委員 (県リハビリ専門職団体協)</p>	<p>(広域支援センターが実施するリハ職の派遣調整事業は) 行政と医療職、専門職等をつなぐためのシステムとしてしっかり働くと思う。</p> <p>ただ、広域支援センターの立ち位置には懸念がある。</p> <p>広域支援センターの役割は行政と専門職や各事業所の間をつなぐものなのか、それとも広域支援センターそのものが中心になって実施していくというものなのか。</p> <p>広域支援センターはあくまでもつなぐことが役割ということであればよいと思っている。</p>

<p>県庁健康増進課 渡邊班長</p>	<p>藤原委員がおっしゃった広域支援センターの立ち位置であるが、広域支援センターが中心で動くのではなく、圏域内で行政や専門職等をつなぐ役割、他機関とうまく連携しながら調整していただくことを期待している。</p> <p>また、先ほどのシズケア*かけはしの説明について追加すると、来年度ビデオ会議システム機能を拡充して使える仕組みを検討している。先ほどコロナの情報交換の話があったが、そうした場面で対面せずに情報交換できる仕組みもこのシズケア*かけはしで活用できるとよいと考える。</p>
<p>野中委員 (県訪問看護ステーション協)</p>	<p>訪問看護ステーションも、国や県の指針に基づいてコロナ対策をしている。家の中で閉じ込められている方々にもできるだけ重度化しないように取り組んでいる。</p> <p>また、前回の会議でも話したとおり、訪問看護ステーションの職員がコロナに感染することによりその事業所が利用できなくなった場合でも他の訪問看護ステーションが代わりに担えるように、御家族の方々にアンケートを取って、訪問看護のサービスが途切れない仕組みづくりをしている。</p> <p>駿東田方圏域ではシズケア*かけはしの登録事業所が220箇所もある。これをうまく利用してみんなが参加できるような形をもっと工夫していけば、ICTの部分も含めてより充実したコロナ渦における対策ができるのではないかと感じた。</p>
<p>堀内委員 (県老人福祉施設協議会)</p>	<p>介護施設ではシズケア*かけはしの導入はあまりないが、うまく連携できるのであれば検討していきたいと会議などで話を聞くにつけ思う。</p> <p>特別養護老人ホームはどこも、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所、デイ、ホームヘルプがあつたりと複合的なサービスをやっているの、そういうところはシズケア*かけはしを使って施設との連携をとることが必要ではないかと思っている。</p>
<p>笠原委員 (県地域包括・在宅センター協)</p>	<p>地域リハビリテーションの強化推進についてお話したい。</p> <p>自分の包括支援センターでも、今年度に一回この講師派遣事業を使わせていただき、内容もとてもスムーズにいったよかったです。</p> <p>ただ、講師の報酬に関する定めがないため、直接その講師と報酬金額の交渉をする必要があつた。</p> <p>今後、継続してやっていくにあたって、都度都度、講師と報酬金額の交渉をしなければいけないというのは非常に使いにくいと感じた。</p>

<p>県庁健康増進課 渡邊班長</p>	<p>リハビリテーション専門職派遣に係る報酬単価を県で一律に統一して欲しいとの意見があることは承知している。しかし、報酬については市町が地域支援事業の中で実施して支払っているということもあり、市町によって単価が異なるため、県が一律に決めるというのはなかなか難しい。</p> <p>また、歯科衛生士と管理栄養士についてもリハ職の派遣調整事業と同様の取組を栄養士会と歯科医師会、歯科衛生士会と協力しながら、来年度進めていきたいと考えている。</p> <p>今後県でも課題等を集約していくが、報酬単価については県で一律の金額を決めるのは難しく、市町で単価を決めていただけるとありがたい。</p> <p>市町の方からこの点について御意見をいただけるとありがたい。</p>
<p>●議長 (黒岩所長)</p>	<p>伊豆市の麻場委員、御意見いかがでしょうか。</p>
<p>麻場委員 (伊豆市)</p>	<p>伊豆市では、市内のリハビリ病院に頼んでリハ職を派遣いただいている。市の事業で派遣してるので市が単価を決めているが、他の事業者がリハ職を派遣する単価を市の単価と同じでいいのかといえば、色々と事情があるのではと思う。</p> <p>市の単価自体はお伝えすることはできると思う。</p>
<p>●議長 (黒岩所長)</p>	<p>伊豆の国市の寺尾委員、いかがでしょうか。</p>
<p>寺尾委員 (伊豆の国市)</p>	<p>単価の話だが、やはり市町によって異なるため、支出している金額をお伝えすることはできるかもしれないが、統一するとなると難しいのではないかな。</p>
<p>藤原委員 (県リハビリ専門職団体協)</p>	<p>各市町から報酬単価を決めて欲しいという要望があるが、仕事の内容、例えば会議に参加するだけか、講師として出席するのか、調査のみなのか等、仕事の内容も違えば介入する時間等もあり、なかなか受け手のほうで決めることでもないのではないかな。</p> <p>また、この事業(地域支援事業のうちの地域リハビリテーション活動支援事業)が始まる前からリハ職が各行政と関わっていて、その頃からの関係の中でリハ職の派遣をしているところもあるため、難しいところもある。</p> <p>なお、笠原委員からも挙げられた内容に関しては、その地域におけるリハ職の派遣事業の平均的な報酬金額というものを、県リハビリテーション専門職団体協議会で提示することも可能なので、そちらも参考にさせていただきたい。</p>
<p>●議長 (黒岩所長)</p>	<p>その他にいかがでしょうか。今の議題に限らず、全体を通してでも結構です。今回が最終の会議の場にもなりますので、全体を通しての御質問、御意見、御</p>

	<p>感想でもいただけますでしょうか。</p> <p>三島市医師会の吉富委員、いかがでしょうか。</p>
<p>吉富委員 (三島市医師会)</p>	<p>シズケア*かけはしでビデオ会議ができるようになるという話があったが、そうしたものが広がっていった、これまで我々診療所の医師がなかなか参加できなかった退院時の担当者会議などに参加できるようになるといい。</p> <p>是非、そうしたところも含めてシズケア*かけはしの導入を検討していただければありがたい。</p>
<p>県庁健康増進課 渡邊班長</p>	<p>今までは動画や画像の共有は容量的な問題があったが、拡充後のビデオ会議システムではそうした長時間の動画の共有も可能になってくると思うので、退院時カンファレンスなどでうまく活用いただけるシステムになるのではないかと。</p> <p>是非シズケア*かけはしを活用いただきたい。</p>
<p>栗原委員 (三島市歯科医師会)</p>	<p>シズケア*かけはしに関しては何回か説明を受けたが、歯科にはどうもなじまない、利用しにくいところがある。</p> <p>確かに三島地域の歯科医はかなり頻繁に訪問しているが、一人の患者さんに定期的に訪問するという機会はありません。</p> <p>主治医の先生に問い合わせるのも一回往診すると処置がそれで終わってしまうということが多いので、シズケア*かけはしを訪問の場で使うのには、少し馴染まないところがある。</p> <p>また、登録料の問題もある。使う頻度が少ない割に登録料を負担するのは少し厳しい。</p> <p>先ほど三島市医師会の吉富先生がおっしゃったように、担当者会議などに使えれば、我々ももう少し参画しやすくなるのではないかと感想である。</p>
<p>関委員 (三島中央病院)</p>	<p>コロナ渦で受診控えがあり、少し状態が悪いのに何日か様子を見てかなり重症になってから入院する方が多くなっている状況がある。感染拡大予防は、そうしたタイムラグが出ない範囲で務めていただきたいと思いますと思っている。</p>
<p>稲木委員 (伊豆赤十字病院)</p>	<p>シズケア*かけはしは、我々も利用しているが、現状ではうまく使いきれていないというのが正直なところである。</p> <p>ただこうしたコロナ渦の状況だと、ICTを使っていけないとやっていると皆さんのお話を聞いてよく分かった。</p> <p>これから力を入れて取り組んでいけたらと思っている。</p>
<p>當委員 (県介護支援専)</p>	<p>コロナ渦で地域の活動が減っている中で、介護申請が増えていると聞いている。また、感染の不安から介護サービス利用を控えている利用者、高齢者も見受</p>

<p>門員協会)</p>	<p>けられる。</p> <p>そういう中で、今シズケア*かけはしの話聞いて、ビデオ会議などにより色々な関係機関の先生方と情報共有できるようになるのであれば、情報をいただき活用できるようになればいい。</p>
<p>紅委員 (県小規模多機能型居宅介護事業者連絡会)</p>	<p>当施設ではまだシズケア*かけはしを導入できていないが、皆さんの話を聞いたり、今やはりコロナで利用者が受診に行くことを控えていることも多く見受けられているので、その際に活用できるのではないかな。</p> <p>また、認知症(の治療)で伊豆から三島へ通っている利用者もたくさんいる。御家族が認知症の方を連れていくのは大変なことであるため、そのようなことにもシズケア*かけはしを活用できたらいい。</p>
<p>小森委員 (伊豆市社会福祉協議会)</p>	<p>伊豆市社協では通いの場やふれあいサロンを主催しているので、その視点でお話したい。</p> <p>圏域計画の中にコロナ渦における通いの場のことを記載していただき、大変ありがたい。</p> <p>新型コロナの関係で、サロンの開催は住民やボランティアも含めて二の足を踏んでいるところがあり、私ども社協職員は小規模の研修会を開催するなどしてサポートしている。</p> <p>例えば、市内にある薬局の薬剤師に講師に招き感染症予防の話をしていただいたが、大変好評であった。このようなところから多職種連携をどんどん進めていければと思う。</p> <p>伊豆市は四つの旧町があるが、薬剤師が感染症予防の講師を務めていただく際には、私どもが旧町4つの会場を設定してZ o o mで行うことも計画をしている。</p> <p>今後、I C Tを活用しながら、介護予防やフレイル予防に努めていきたい。</p> <p>また、今後は歯科とか栄養士会なども予防に入ってくると考えているので、多職種連携も活かして是非住民の活動を活発にしていければと考えている。</p>
<p>三原委員 (田方医師会)</p>	<p>シズケア*かけはしについて皆さんから話を聞いて、このシステムができる最初から参加していた身としては、ここまで来たのかと思いき嬉しい。</p> <p>確かにこのシステムはとっつきにくい。パソコン等の用意やシステムに参加する方法などが最初は難しいし、どう使ったらいいかわからないという方が多い。</p> <p>田方医師会関連の2市1町ではこのシステムのインストラクターが9人おり、その方々がエキスパートになって、要望があればそこにいき、最初の立ち上げからお手伝いするというをやっている。ぜひ利用していただきたい。</p> <p>それから、コロナ渦にあつて例えば訪問看護とか訪問介護、ケアマネジャーがなかなか利用者を訪問しにくいとか、断られるということがあると聞く。訪問し</p>

	<p>てくる人が感染していないということが分かっているならば、利用者も安心して受け入れることができると思う。</p> <p>そのためには、PCR検査を受けて陰性であるということをはっきりさせるしかないと思う。静岡県で率先して行うという話はないか。</p> <p>例えば、東部保健所管内で変異型のウイルスが3、4例出たということで、今、静岡県民自体が他県から白い目でみられるような状況になっている。東京の人から静岡県は大変だみたいなことを言われるが、それを払拭するためにはやはりPCR検査をしていくしかないと思う。</p> <p>中国では、変異型が3例出たときにその地域の150万人に対してPCR検査を全てやるというような話を聞いた。国は違うがそこまでやらないといけないのではと、安心できないのではないかという感じもする。静岡県だけでもそういう取組ができないかと思うがどうか。</p>
県庁健康増進課 渡邊班長	<p>県の方でも、新型コロナ対策チームで、PCR検査をどのような形で行っていくかということを検討しているので、今の御意見を伝える。</p>
●議長 (黒岩所長)	<p>若干補足させていただきます。</p> <p>東部保健所管内の社会福祉施設、特に高齢者が利用する入所系や通所系、有料老人ホーム等も含めて、全ての施設を対象にPCR検査を実施するよう国から指示が来ています。対象者は施設職員全員ではなく抽出となるため、施設ごとに検査人数は違います。</p> <p>東部保健所管内のおよそ500施設の職員を対象に、2月に約2週間ほどかけて一斉検査する取組を現在予定しているところです。</p>
三原委員 (田方医師会)	<p>よく分かった。それをもっと拡充していけるといいと思う。</p> <p>本当は我々も医師としてPCR検査を受けたいが、対象に入っていないのか。</p>
●議長 (黒岩所長)	<p>とりあえず現時点では、高齢者が利用する施設を中心に今回実施することになっております。</p>
三原委員 (田方医師会)	<p>承知した。</p>
●議長 (黒岩所長)	<p>ほかに意見はございますでしょうか。</p> <p>小林委員、お願いします。</p>
小林委員 (県ホームヘルパー連絡協議会)	<p>地域リハビリテーションの強化推進の部分、11ページの資料3のポンチ絵の左側にリハ職の活動として「訪問：通所事業所への助言」と書かれてある。</p> <p>在宅で高齢者を元気にするためにはリハビリをただ行うだけではなく、リハビ</p>

	<p>りをできるような身体づくりをしなければいけないので、先ほど伺った歯科衛生士や栄養士の派遣を調整してもらえるとというのはとてもいいことだなと思った。</p> <p>高齢者、特に増えつつある独居の方についてはほぼ低栄養状態であると言って間違いない。</p> <p>私たちヘルパーは調理を頼まれることが多いが、利用者の中でも糖尿病や慢性腎不全の方に対して何を食べていいとかどういう調理法にしたらいいかという部分について、私たちヘルパーからお話しても、利用者の方になかなか伝わらない。嗜好の強い方もいらっしゃるので、そうした部分も含めて専門職の方に御指導いただきたい。</p> <p>そういう糖尿病にならないような身体づくりをするための話を地域の方に広くお話していただくととてもいいと思う。</p> <p>また、私たちホームヘルパーの側からも、リハ職や歯科衛生士、栄養士の方に相談したいと思う場面があり、相談窓口があると協力、連携ができていい。</p> <p>お願いになるが、そうしたことも検討していただきたい。</p>
●議長 (黒岩所長)	<p>貴重な御意見ありがとうございます。</p> <p>函南町の長屋委員、今の御意見に関して何かございますでしょうか。</p>
長屋委員 (函南町)	<p>函南町では総合事業での短期集中訪問支援を実施しており、理学療法士のニーズが非常に高い。その(理学療法士の介入の)前に、口腔ケアと栄養改善が望まれるところだが、派遣可能な訪問に慣れている歯科衛生士や管理栄養士がいないという課題がある。</p> <p>また、ホームヘルパーからの相談窓口となると、相談を受けられる人材を養成しなければいけないという課題も同様にあるため、今は申し訳ないが解決するための提案ができない。</p>
県庁健康増進課 渡邊班長	<p>小林委員から御意見いただいた管理栄養士と歯科衛生士については、今年度から地域で活動できる人材の育成研修を実施している。</p> <p>今年度400名強の方が研修を受講いただいて、今年度末に名簿化する予定であり、それをどのような形で提供できるかを今検討している。そうした方々に地域で活動していただけるような準備を行っている。</p> <p>管理栄養士については栄養士会のほうで窓口を担っていただく予定だが、栄養士会の中に栄養ケアステーションというものが東部中部西部にあるので、どこまでの相談に対応いただけるか等、その仕組みを検討中である。</p> <p>また、ホームヘルパーの窓口に関しては、近々栄養士会や歯科衛生士会等ともとお話する機会があるので、今日いただいた御意見についてお話ししたい。</p>

<p>佐野委員 (三島市)</p>	<p>通いの場の支援ということで、先ほど私から国のマニュアルという話をさせていただいたが、具体的には「通いの場の新型コロナ対策ガイド」というものである。東京都の健康長寿医療センターから各自治体に知らされている。</p> <p>また、「通いの場の活動再開の留意点」というようなガイドも出されているので情報提供する。</p> <p>三島市で、今年1年間の介護給付等の実績を分析をしてみた。このコロナ渦にあつて介護給付はそれほど落ち込んでいないが、介護予防給付の伸びが悪く、特に総合事業は去年に比べて事業費が下がっているような状況である。</p> <p>コロナ渦において、介護サービスを利用控えしている人たちは、予防など比較的介護度の軽い人たちが多いのではないかと実感している。</p> <p>今後、介護予防を進めていかないと介護が必要になる方が多く出てくるのが大変心配であり、懸念している。</p>
<p>●議長 (黒岩所長)</p>	<p>ありがとうございました。他にはよろしいでしょうか。</p> <p>予定の時間もそろそろ参りましたので、委員の皆様、今回も大変貴重な御意見御提言等をいただきましてありがとうございました。</p> <p>また今年度3回の会議に御参画いただいて貴重な御意見を賜り、計画策定に御協力いただきましたことをこの場をお借りして感謝申し上げます。</p> <p>それでは、進行を事務局にお返しします。</p>
<p>○石川部長 (事務局)</p>	<p>ありがとうございました。皆様方におかれましては、長時間にわたり熱心な御議論をいただきありがとうございました。</p> <p>本日限られた時間でしたので、言えなかった御意見、後になってお気づきの点等ございましたら、事務局あてに御連絡いただきますようお願いいたします。</p> <p>また資料1の説明にありました通り、今後県の部会や会議を経て、3月末に計画が策定、公表される予定です。なお公表された計画につきましては来年度以降、皆様のお手元にお送りする予定です。</p> <p>それでは以上をもちまして、令和2年度第3回駿東田方圏地域包括ケア推進ネットワーク会議を終了いたします。ありがとうございました。</p> <p>それではZoomのミーティングを終了してください。</p>